

主催：にいがたアグリクラフト



北前船で新潟の特産物をのせ入船、出船の賑わいを稲穂で表現



開港150周年を稲穂で祝う

新潟の特産といえば「コメ」「酒」をよく聞きます。そこには先人たちが築き上げた稲作の歴史や水との関わりがありました。メインオブジェに北前船で賑わう「にいがた湊」を行き交う船を、8区のイメージカラーを帆に表しました。新潟の特産をのせて入船、出船の賑わいを見せた様子を稲穂で作り、開港150周年の新潟を顧みて、未来に大きく羽ばたいていくことをコンセプトとして表現しました。稲穂を素材とした現代アート作品の展示、そしてワークショップにて「水と土」に育まれた稲穂に触れ楽しんでもらいました。

メインオブジェを見ての声は、とても好評でした。北前船を見ておられる方々からは全部手作りであること驚かれ、通路を通過時には子供たちがカモメに触れ、楽しく喜んでいる様子を見ることができました。カモメは触れて羽ばたくようにして良かったと思いました。

開港5港の一つ新潟を表す市章の由来も表記、それを見て、なるほどと再認識されていた方々多かったです。見やすく色の違う稻を使つたのも良かったです。ワークショップ(あみあみトウガラシ)には、県外から朝早く出向かれた方もおり、初めての参加で喜んでいる様子と稻のにおいに懐かしさを感じられておりました。子供たちは、編み方に苦労していましたが、保護者の方々は、じっと我慢して作り上げるのを見守り完成を喜んでいました。車いすを使われているご家族の参加もあり「おばあちゃんも一緒に作ってみよう」と声掛け、「いいよ」と言うおばあちゃん、「作り始めると手は昔を思い出し動くものですね」完成した時の笑顔はとっても素敵でした。これからも少しでも多くの方々に新潟の特産ともいえる稻に触れ創作できる機会を増やしていくならと思います。（文：井上）

- 9月15日(土)～9月30日(日) メインオブジェ展示（食育花育センター玄関脇緑地）
- 9月16日(日)～9月30日(日) ワークショップ（食育花育センターアトリウム）